

いのちあふれる森を次世代へ

しれとこの 森通信

2019
No. 22



P2
40回記念特集
「知床自然教室」

P6
参加者募集
「第40回知床自然教室」「2019年10月は知床へGO!!」

P8
2018年度活動報告

National trust 100㎡ Movement Forest Trust
100平方メートル
運動の
森林
トラスト

40回記念特集

知床自然教室

この夏で40回目を迎える知床自然教室。1980年の第1回からこれまで、のべ1800人を超える子どもたちが知床に集いました。小学生から高校生まで6〜8人が一つの班を作り、4泊5日の野外生活を送ります。そこは知床の自然の真つただ中。テントを立て、かまどを作り、トイレの穴を掘り、水を汲み、全てを子どもたちでやり遂げます。そのスタイルは今も昔も変わりません。知床の自然と100平方メートル運動を次世代へとつなぐために始まった自然教室。野外生活の舞台「ポンホロ」の様子と卒業生の声を通して、その魅力と意味をお伝えします。

拡散希望

知床のDNA —文—村田良介

私の自然教室との出会いは以久科^{いくしな}の遺跡発掘現場だったと記憶しています。私が斜里に住み始めた翌年でしたが当時、この教室が40回も続くとは全く予想していませんでした。

第1回は、ウトロ小中学校を宿舍に、食事は学校給食センターのスタッフの力を借りながら、昼間は動物や植物の観察、夜には集団生活を体験するスタイルでした。

第4回頃までは、ウトロ市街地周辺の植物観察や運動地での植生変化のデータ集積などを行い、第5回の教室からはより深く自然を認識するために野外生活を導入。また、第10回頃からは個別の植物や動物に関する知識習得よりも、知床の自然をエリアとして認識するために、登山や川歩きなどをおして「自然を感じる心」を育てるようになっていったのです。

当時はウトロのみやげ物屋さんの店先でも子熊が鎖でつながら、教室の参加者も「観光地」としての知床を目にしていました。ま

た、第8回の教室は知床の「国有林伐採」が行われた直後でした。こういった地域の生活や国政に係る社会状況の渦中にあつて、指導員や町の担当者は、知床の自然を教材にすることの難しさに直面していたのです。そのため宿舍やテントでは、知床や自然や教育に関する熱い議論が深夜まで続くことが恒例でしたが、スタッフの全てが知床の自然を守りそれを子ども達に伝えていく使命感に溢れていたことは言うまでもありません。

斜里町の自然保護政策は、しれとこ100平方メートル運動をスタートさせるとともに知床博物館を建設し、さらに現地に自然センターを設置して知床財団を設立してきました。これらの施策は学校や知床博物館で続けられている教育活動を経て、知床の世界自然遺産登録を実現させたのです。

この間、知床自然教室は知床を未来に繋ぐ学びの最前線でした。参加者だった小学生や中学生が大学生リーダーに成長し、さらに指導員に变身しています。参加者の心に刻み込まれた知床のDNAが世界中に拡散し始めています。

指導員当時【1983年第4回】

村田良介

【前斜里町教育長／知床財団理事長】

1954年石川県生まれ。1980年斜里町役場（教育委員会）に採用。同時に第1回の自然教室から指導員として関わる。その後、知床博物館学芸員、総務環境部長などを経て2011～2019年5月まで教育長。2016年より知床財団理事長も兼任。



水場

生活に必要な水はここで汲みます。飲み水は、浄水器を通すか煮沸して飲みます。猛暑日には涼める、ポンホロのオアシスです。



フードハンガー/食糧車

食べ物のにおいがついた食器は、ヒグマを誘引する恐れがあるため、高い木に吊るしています。食べ物は食糧車で保管をします。



テント場

テント場は、ヒグマが近づけないように、電気柵で囲われています。テント内に食べ物を持ち込まないことも、大事な約束事です。



「ヒグマと出会わないように行動する」が原則ですが、それでもまれに遭遇することが…そんな時も慌てず騒がず。子どもたちは、指導員に従ってその場から、ゆっくり離れます。

フードハンガー

テント場

テントは、食べ物のにおいがする場所から十分に離れています。ヒグマの生息地では、食べ物の管理がとても重要です。子どもたちは、キャンプ生活の中で身をもって学びます。

炊事場エリア



火おこして
むずかしい!

炊事場

穴を掘ってかまどを造るところから始まります。火おこしから調理まで、ご飯づくりを通して、子どもたちは自然の中で暮らす知恵を身につけます。

トイレ

班ごとに、ササやぶの中に穴を掘って作ります。

自然教室の舞台 ポンホロMAP

ポンホロは、かつての開拓跡地です。「ポン」は、アイヌ語で「小さい」を指します。幌別川の脇を流れる小さな沢を、昔の人は「ポンホロベツ」と呼びました。その愛嬌ある響きの地名は、自然教室の子どもたちに親しまれ、いつしか野外活動の場を「ポンホロ」と呼ぶようになりました。



ここはヒグマ
の生息地!

② 知床国立公園 世界自然遺産入口

ウトロの町から歩くこと約1時間。徐々に自然が深まり、国立公園内へ。ヒグマの注意看板を横目に、緊張感は、さらに高まります。

① ウトロ漁村センター



初日はここで1泊。キャンプ生活に入る前に子どもたちは、知床の森やヒグマ対策について学び、準備を整えてから冒険に旅立ちます。

この海岸線では
オジロワシが、毎年
子どもたちを
迎えてくれます



ウトロからポンホロまで
約5kmの道のり



栗原 静香さん



1967年神奈川県生まれ。旧姓國廣。1980年第1回自然教室に参加。以後4回の参加を経てリーダーとしても自然教室に関わる。妹3人も当時の参加者。自身の子ども3人も自然教室に参加。国際スポーツチャンバラ協会インストラクター。

小学4年の夏。それは我が家では特別な。親子で買い出しに行き、独り立ちの準備をする。大人用のザックに寝袋。本格的な雨具に最強の長靴。羽田で搭乗ゲートをくぐればそこは異世界。親には頼れない自然教室の1週間が始まる。

私自身は中学1年の夏、第1回の自然教室に参加した。引つ込み思案、失敗嫌いで心配性。「知床、素敵よ」という母の言葉に乗せられ参加し、驚いた。大人も参加者も全員が初参加。前例が何もない。それでも、リーダー、指導員の方々が知床の自然、歴史、そして運動を伝えてくれた。「本気の大人はスゴイ！何事も楽しめば、挑戦も失敗も怖くない！」その思いは翌年、自然教室を直撃した大型台風を乗り越え、確信になった。

小4だった長男は現在社会人、娘は9年連続の皆勤賞で昨年自然教室を卒業、残る次男は高校生で参加中。あの頃、体育が大嫌いだっただけはスポーツチャンバラのインストラクターになった。人も知床の森も、夢はゆつくり育つ。夢に向かって挑戦を楽しもう。



1983年第4回 当時中学3年生の栗原さん

川端 結さん



1999年大阪府生まれ。2009年、第30回自然教室に初参加（小4）。以後5回参加。兄と弟2名も自然教室参加者。高校卒業後に北海道に渡り、酪農学園大学に進学（現在2年生）。獣医学を学ぶ。

「自然教室の準備しなさいよ」「はー」夏休みも中頃、我が家では毎年恒例の荷づくりが始まります。初めてのことでだけのボンホロでの生活、満天の星空、おなかも心も満たされるおいしいごはんと食後のマシムロ…。知床に行くのが楽しみで仕方ありませんでした。

初めて知床自然教室でヒグマやエゾシカを見たときは今でも鮮明に覚えています。動物園で見た同じ動物とは全く違って見え、その雄大さや威厳のある姿に惹かれました。しかし、人の行いが原因で野生動物を殺処分しなければならぬことがあると知り、どうすればそのような動物の数を減らすことができるだろうか？と考えた時に思いついたのが獣医師になることでした。人の生活を維持しながら野生動物とどのように付き合っていくのか？人も動物も幸せな環境とはどのようなものなのか？獣医学を学びながら、どのようにして未来の知床や子ども達のために獣医学を活用できるのかを模索していきたいです。



2009年第30回 当時小学4年生の川端さん

卒業生のおもひで

『それぞれの自然教室』

私たちは、これからも子どもの心に残る自然教室を続けていきます。

子どもたちが自然を好きになれば、その想いは、開拓跡地に木を植えるように、未来の自然を育むと信じています。

鈴木 芳房さん



1974年栃木県生まれ。1984年第5回自然教室に初参加（小5）。以後2回参加。東海海洋学部に進学後もリーダーとして関わる。現在は北海道余市町在住。海洋探査を専門とする会社所属。写真家としても知床の海を撮り続ける。

ヒグマの存在を感じながら森を歩き、シャチが泳ぐ流水の海でアザラシの親子を撮影する。野生の世界に生きていることを実感し、子供の頃に感じた自然のすばらしさを今も感じられる大地。それが現在の私にとつての知床。

小学生で参加した自然教室は、開拓跡地の独特の雰囲気、隣接する深い森、エゾシカの美しさ、ヒグマの気配、川や海の魚影の濃さに驚き、リーダーや指導員、出会った友達と一緒に感動する日々でした。

おやつにラムネばかり持参していた私のあだ名は「ラムネ」となり、今でもそう呼ばれることが気恥ずかしいですが、仲間と過ごした時間を懐かしく思い出しています。

昨年、長女が初めて参加者となり、これまでとは違う新たな感覚で自然教室を、知床の海を感じるようになりました。潜水調査の仕事は夏が忙しく、自然教室に参加するのは難しいのですが、いつの日か知床の海を語る指導員として親子で参加できればと思っています。



1986年第7回 当時中学1年生の鈴木さん

松林 良太



知床財団 自然復元係長
1974年神奈川県生まれ。1984年の第5回自然教室（小4）より5回参加。高校卒業後、北海道に渡る。札幌学院大学を経て、札幌市中央卸売市場にて青果卸売業に従事。2005年より知床財団。知床にて結婚。現在、2児の父親。第28回より自然教室隊長を務める。

知床が「故郷」になる日

これまで39回の知床自然教室に参加した子どもたちはのべ1855人。その中には、何度も参加する子どももいれば、1回きりの子どももいます。楽しいこと、つらいこと、感じ方はそれぞれです。ただ一つ言えるのは、3年前も今の子どもも知床のボンホロでほぼ同じ経験をしているということです。テントを立て、かまどを作り、虫、星、動物、歌、仲間…。

もちろん、社会も変わり、技術も進み、世の中は便利にもなっています。しかし、電気も水道もない自然の中で人が生きること、その術は変わってはいません。その経験が、それぞれの「原体験」につながっているのだと思います。誰もが知床に戻ってこれるわけではありません。ただ、人生の中で二度でも知床のことを思うことがあれば、それだけでも自然教室が続いてきた意味はあるのかもしれません。世代を超えて同じ経験ができる場所、それが知床でありボンホロだと思っています。

そんな場所があり続けること、そんな場所を守り伝えていくこと、それが今の私たちの役割です。もうすぐ40回目、目の自然教室の夏が始まります。



1988年第9回 当時中学2年生の松林さん

参加者募集!!

第40回知床自然教室

- 日時:2019年8月1日(木)～7日(水)
- 対象:小学校4年生～高校3年生
- 定員:40名(先着順)
- 参加費:35,000円(別途現地までの交通費)
- 申込〆切:6月24(月)

参加申し込み・お問い合わせは
公益財団法人 知床財団 自然復元係

TEL:0152-24-2114

MAIL:info@shiretoko.or.jp



記憶に残る自然体験は、きっと宝になる

3つのイベントが同時開催2019年10月は 知床にGO!!

知床自然教室 40 周年イベント

知床への回帰

これから自然教室に参加する子どもたちのために



卒業生の手でポンホロに
ツリーデッキ
をつくろう!!



●知床自然教室 40 周年イベント 主な内容

- ◆ポンホロにツリーデッキをつくろう!!【10月18, 19日】
- ◆フィルムフェスに知床自然教室のブースを出展【10月19, 20日】
- ◆植樹祭に参加【10月20日】

※イベント詳細

上記QRコードから100m²運動ホームページをご覧ください。
<http://100m2.shiretoko.or.jp/>

- 日時……………2019年10月18日(金)～21日(月)※最長3泊4日
途中参加・解散あり
- 応募方法………同封の申し込み用紙を参照
- 募集締切り…8月30日
- 場所……………しれとこ100平方メートル運動地
・知床自然センター・ウトロ漁村センター(宿泊)
- 対象……………知床自然教室OB/OG(18歳以上)
リーダー・指導員経験者、各支部、他関係者
- 定員……………50名程度(地元関係者含む)
※要事前予約。家族等の同行も可(基本的に参加者と同様の扱い)
- 参加費……………最長(3泊4日):～15,000円* (食費・保険料等実費)
*中高生半額、小学生以下無料

10月18～21日
自然教室卒業生
集合!!

第2回

知床アウトドアフィルムフェス

Shiretoko Outdoor Film Festival 2019

昨年、大好評を得たアウトドアの祭典が今年も開催されます。世界中のアウトドア映像を集めたフィルムフェスの他、アウトドアメーカーによるブース出展等々、アウトドアの聖地知床ならではの催しが企画されています。

- 日時……………2019年10月19日(土)～20(日)
- 場所……………知床自然センター

10月19～20日

アウトドア文化
を楽しむ

第23回

しれとこ森の集い(植樹祭)

10月20日

知床で木を
植える

- 日時……………2019年10月20日(日)
- 集合場所………知床自然センター*
- 時間……………9時～11時30分
- 参加費……………無料

*無料送迎バスの運行有り。



上記 2 つのイベントの詳細は、折込チラシをご覧ください。

2020年春、新映像公開！

斜里町では今、「知床自然センター」で上映する新たな作品の撮影が始まっています。開館以来30年間に上映されてきた「四季・知床」に続く新たな作品が、2020年春に公開されることが決まったのです。現在、現地での撮影が続いています。そのメガホンを取るのは、今津秀邦監督。監督は、長年旭山動物園の動物を撮り続けてきたほか、代表作として北海道の大自然に生きる野生動物たちの姿をとらえたドキュメンタリー映画「生きとし生けるもの」を制作、各地で上映されています。この作品は、2017年日本映画撮影監督協会JSC賞受賞のほか、先日インドで開催されたレイン国際自然映画祭で審査員特別賞を受賞しました。

撮影の基本は動物たちと映画から学ぶ、と述べる感性豊かな今津監督の新作、乞うご期待です！



撮影中の今津秀邦監督

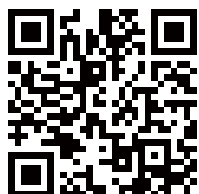
クラウドファンディング

「ヒグマ対策ゴミステーション」プロジェクトが成立！

インターネットを通じて寄付を呼び掛けていた「北海道斜里町でヒグマと共存するためのゴミステーション設置を！」プロジェクトが、目標金額を上回る寄付を集め、2019年1月末に成立しました。このプロジェクトは、ヒグマに荒らされないゴミステーション3台を斜里町ウトロ地区に設置することを目的に、知床財団がクラウドファンディングサイトReadyfor（レディフォー）を通じて、12月3日から寄付を呼び掛けていたものです。プロジェクトには全国190名の方から、合計181万円の寄付が寄せられました。

クラウドファンディングとは、インターネットを通じて寄付を呼び掛けて、資金を募る仕組みのことで、知床財団としては初の試みでした。

今後、ゴミステーションの製作や設置場所の選定を進め、2019年夏までに設置することを目指しています。プロジェクトの詳細については、Readyforサイトをご覧ください。



Readyfor サイト QR コード



2018年11月、国設知床野営場(斜里町ウトロ)に設置されたヒグマ対策ゴミステーション。

知床財団が

設立30周年を迎えました

昨年2018年、知床財団は設立から30周年を迎えました。時を同じくして立ち上がった知床自然センターも30周年。この記念すべき年を機に、知床自然センターでは10月、「知床アウトドアフィルムフェス」を初開催しました。

フェスでは、知床自然センター館内のメガスクリーンKINETOKOを活用した映像祭のほか、施設周辺の森でのアクティビティやアウトドアメーカーによるブース出展、地元食材を使ったフェス限定のフード販売など様々な企画が催されました。お天気にも恵まれ、さらには赤や黄色に色づいた秋の樹々がフェスをより一層彩ってくれて、多くの来場者とともに賑わった、晴れやかな2日間のフェスとなりました。

「知床アウトドアフィルムフェス」は2019年10月に第2回を開催予定です。



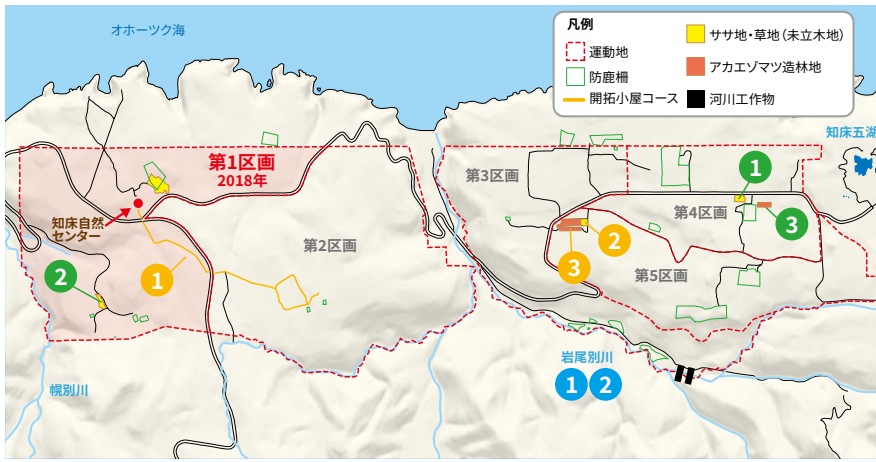
100平方メートル運動地 2018年度 活動報告

2018年度は、幌別台地の西側にある第1区画が帰帰作業年です。

森林再生では、ササ地や未立木地を対象に森林化作業を行いました。また、アカエゾマツ造林地の樹種多様化に向けた間伐を実施しています。

生物相復元では、岩尾別川でサクラマスの卵の放流や調査を継続して実施。昨年に引き続き、サクラマス復元の兆しが見えてきました。

運動地公開では、昨年オープンした「森づくりの道・開拓小屋コース」などを開設。利用者は年間2千人を超え、徐々に知名度を上げています。



森

森林再生

1 防鹿柵外に広葉樹を植えました



シカの生息密度低下の兆しを受け、柵外に広葉樹を植えています。しかし、オヒョウやハルニレなど、シカが好物な樹種は、いまだ樹皮保護ネットを巻く必要があります。まだまだ油断は禁物です。

2 ササ地を森に変えましょう！



昨年よりササ地を重機でかき起こし、土をあらわにして木の種子を発芽させる手法を試みています。運動地ではまだ日の浅い取り組みのため、場所に合った技術の確立が課題になっています。

3 アカエゾマツ造林地に広葉樹を！



30～40年前に植えられたアカエゾマツ造林地は、他の木が生えない多様性の低い森になっています。その環境を徐々に変えるため、間伐が本格的に始動しました。

川

生物相復元

1 見えてきたサクラマス復元の兆し



運動地を流れる岩尾別川でかつて生息していたサクラマスの復元に取り組んでいます。調査の結果、過去10年以上ひと桁だったサクラマスの確認数が、この2年間で10尾20尾と増えてきたことがわかりました。

2 岩尾別川の現状と課題



岩尾別川は、数基のダムは改修されましたが、今も魚の行き来を妨げるダムが残っています。これは川の環境改善を進める中で大きな課題となっています。

3 世界遺産の川として



知床の遺産地域内の河川について、専門家と関係機関が話し合う場（河川AP）で、岩尾別川とサクラマスの現状について報告しました。その結果、世界遺産の枠組みの中でもダム改修の検討が始まることになりました。

人

運動地公開

1 人と運動をつなぐ「森づくりの道」



森づくりの道は、運動地の中のあちこちにある森づくりの現場や開拓の足跡を巡る散策路です。四季を通じて約2千人の皆さんに歩いていただきました。

2 知床に木を植える「森の集い」



第22回森の集い（植樹祭）を開催しました。秋晴れのもと、全国からお集りいただいた92名の皆さんとともに、運動地で育てたトドマツの苗木153本を知床の大地へと植樹しました。

3 知床の森で働く「ワークキャンプ」



春と秋に開催した4泊5日のワークキャンプには、合わせて17名のボランティアが参加し、苗畑の手入れや大きな苗木の移植など季節ごとの作業に汗を流しました。



うらべ
ト部 浩一さん

北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場
主査(資源解析)

.....
1971年生まれ、兵庫県出身。
サクラマス専門家として、岩尾別川
の取り組みにもアドバイスをいただ
いている。

.....
豊かな森と川に育まれる魚
「サクラマス」
.....

サクラマスはサケの仲間、ロシアのカムチャツカ半島から日本および朝鮮半島にかけての東アジア地域に生息しています。その語源には諸説ありますが、産卵時期の体色(婚姻色)がサクラ色だからとか、サクラの花が咲く頃に遡上してくるからなどと言われています。知床で「マス」と聞けば、カラフトマスのことを思い出される方が多いと思いますので、サクラマスというよりも河川生活期(海に下る前)の呼び名である「ヤマメ」(北海道では「ヤマベ」と呼ばれる場合もあり)といった方がわかりやすいかもしれません。溪流釣りで人気のあのヤマメです。知床半島の付け根を流れる斜里川は、産卵遡上するサクラマスが滝をジャンプする姿を見られることで有名です。

サクラマスは通常、ふ化から数えて約1年半の期間をヤマメとして川で暮らした後、メスの全てとオスの半数程度が海に下ります。そして、海に降りた丁度1年後の春に生まれた川に遡上し、川の中下流域で夏を過ごした後、9月頃になると川の上流部まで移動して産卵します。寿命は3年で、そのうち合計2年を川の中で暮らします。サケは4〜5年の生涯のうち川の中で過ごすのは数か月ですから、これと比べるとサクラマスがいかに川に依存して暮らしているかがわかります。また、ヤマメの主要な餌は水生・陸生昆虫ですが、それら昆虫の多くは河畔林の葉を栄養源としています。つまり、ヤマメは「森を食べて生きている」と言っても過言ではありません。このように、川と森への依存度が大変強

森づくりの現場から



い魚ですので、その生き残りには流域の環境が大きく影響します。

岩尾別川のサクラマスは1970年代にその姿を消しましたが、その要因の一つとしてダムや河道の直線化、さらには河畔林の減少といった流域環境の悪化が影響しただろうと考えられています。そのサクラマスが、近年、岩尾別川で増えています。サクラマスの回復に向け、北見管内さけ・ます増殖事業協会が尽力されてきましたし、林野庁では治山ダム改良工事に、知床財団では河川・河畔環境の復元に取り組まれてきました。これらの取り組みによる効果が目に見える形で表れているのだろうと思われま

す。岩尾別川は世界自然遺産区域および知床国立公園の入り口付近に位置し、多くの観光客が訪れる場所です。知床の原生的な環境は「核心地域」と呼ばれるエリアに凝縮されていますが、核心地域に位置する河川の殆どは海上からアクセスする以外に方法はなく、一般の人々が立ち入ることは容易ではありません。知床の環境を守るためには知床の自然をより深く知ることが欠かせませんが、最も知床らしい核心地域にはなかなか立ち入ることができないというジレンマに悩まされます。この問題を解決するには、核心地域の自然環

境を体感できる代替場所の存在が大変重要になると思います。その場所として、かつて100平方メートル運動で開拓跡地の買い取りが進められ、今では森林・河川生態系の復元に取り組まれている岩尾別川とその周辺地域はまさにうってつけだと思います。今回報告されたサクラマスの回復はその取り組みの成功を暗示しているのではないのでしょうか。岩尾別川周辺における生態系回復にはまだまだ多くの時間が必要ですが、知床世界遺産河川工作物アドバイザリー会議(河川AP)のメンバーとして、また、サケマスを研究する立場として、今後も岩尾別川流域の生態系回復に関わっていきたいと思っています。



奥の大きな魚影がサクラマス。手前はヤマメ。(2018年撮影)



運動参加者からの

m e s s a g e

ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介します。

斜里町役場 自然環境係 からのお返事



あたたかいお言葉を頂戴しまして、ありがとうございます。メッセージは現場にも届いており、大変励みになっています。知床では、急激な環境改変にならないように森の反応を見ながら少しずつ作業を進めています。これからも、ともに動物たちの棲みやすい豊かな森を作っていきます。

斜里町役場 寺屋

(長野県 80代女性)

しれとこの森通信ありがとうございます。ありがとうございました。知床の生態系を復元するという遠大な計画に参加させていただけて嬉しいです。現地で直接かわっておられる皆様に敬意を表します。



2017年は、しれとこ100平方メートル運動40周年記念行事にご参加いただき、ありがとうございました。交流会の席で一緒にした際に、運動と5名の皆さんとの絆が、これからも続いていくよう、お話しさせて頂いたことを思い出しております。今後も皆さんのご期待に沿えるよう、森づくりを進めてまいります。

斜里町役場 玉置

(福島県 70代女性)

一昨年の40周年記念行事に仲間達と総勢5名で参加しました。40年を超える関係皆様の大変な努力の結果を目の前にし、感動と感謝です。知床連山・オホーツク海・斜里岳もよい思い出です。



朝日新聞(故 辰濃和男 元論説委員)の天声人語は、多くの方とご縁を繋いで頂きました。ご家族13人全員がしれとこ100平方メートル運動にご参加頂いているとのこと、本当にありがとうございます。皆さんの思いが、しれとこの森づくりを支えてくださっていると思います。近い将来、知床にお立ち寄りの際は、厳しい自然の中で38年前から成長し続ける森を感じて頂ければと思います。知床でお待ちしております。

斜里町役場 増田

(千葉県 60代男性)

38年?前に朝日新聞の天声人語でこの活動の存在を知り参加しました。二人の子供、7人の孫に「1歳の誕生日」を記念して贈っています。私も私どもを含めて家族13人が参加しました。



ご結婚25周年おめでとうございます。知床を新婚旅行の思い出の地としてお心に置いて頂いていること、大変嬉しく思います。当時は、きっと今とはまた違った趣のある旅だったことでしょう。おかげさまで、運動は40年以上植樹を続けられました。今後も100年、200年と、植えた樹が育ち、樹洞が動物の棲家になるよう作業して参りますので、知床の森と一緒に作っていきましょう。このたびはありがとうございました。

斜里町役場 鈴木

(岐阜県 50代女性)

新婚旅行で偶然訪れて、100平方メートル運動の森・トラストを知りました。昨年、結婚式を迎え、当時のことを思い出していました。この運動が40年を迎えたことに、さらに今後とも継続することを願っています。本当にうれしいことです。

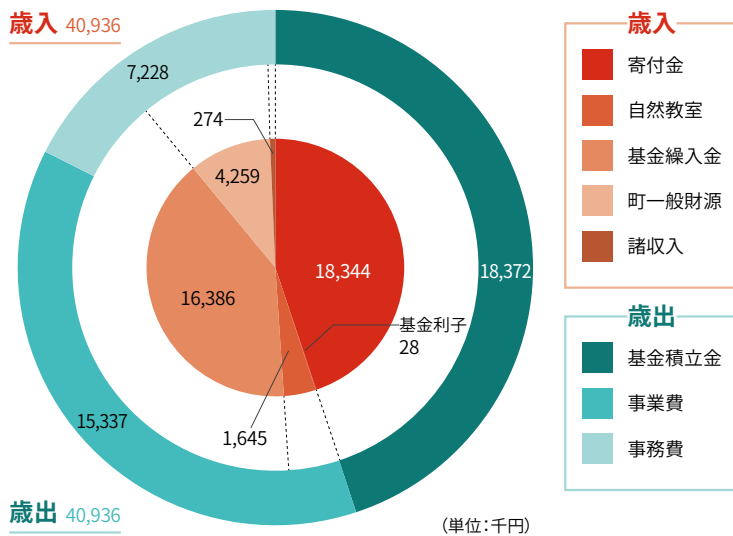
(単位:千円)2019年5月31日現在

			2018 年以前	2019 年	計
国立公園内森林保全基金の状況	歳入	寄付金	886,510	18,344	904,854
		利息	69,812	28	69,840
		計	956,322	18,372	974,694
	歳出	事業費	756,487	13,692	770,179
		事務費	137,171	2,694	139,865
		計	893,658	16,386	910,044
	残高				64,650

運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

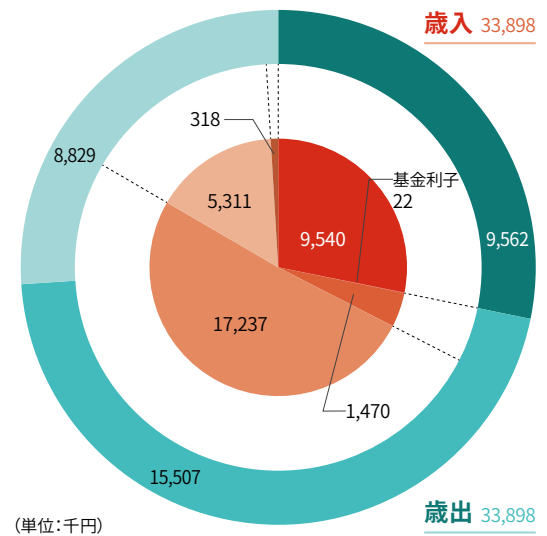
会計報告

○2018年度の事業決算



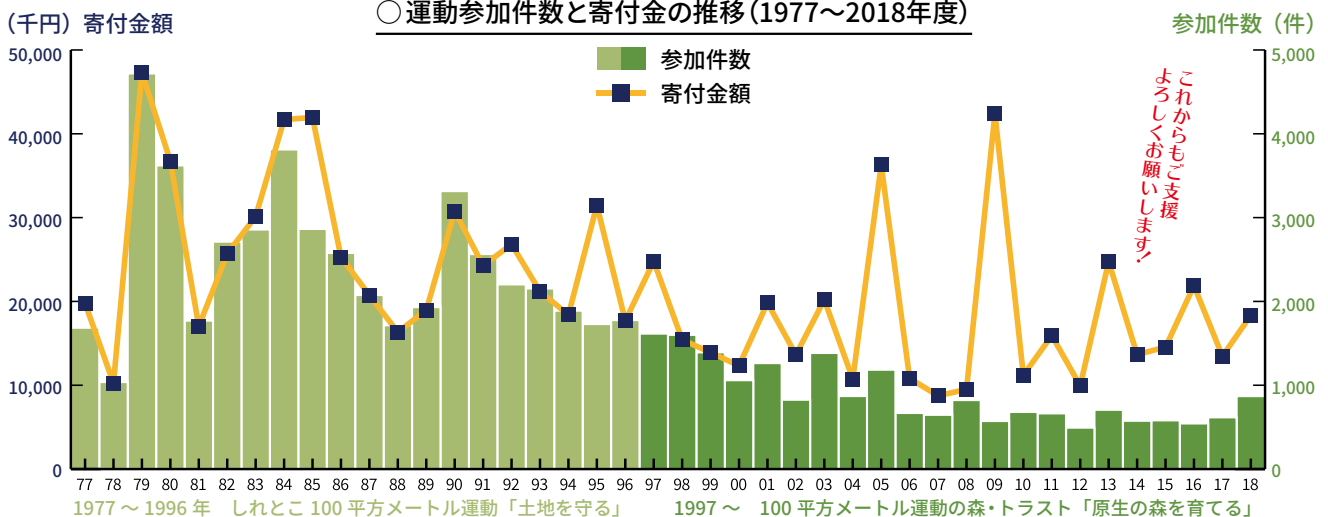
2018年度は、総額40,936千円を支出しました。
事業費の内訳は、森林再生業務委託費(15,337千円)が主なものです。また、事務費として森通信の作成費用や受付事務員賃金などに7,228千円を支出しました。
2018年度にいただいた寄付金(18,344千円)は、いったん運動の基金に積み立て、2019年度以降の活動資金として活用していきます。

○2019年度の事業予算



2019年度の総事業費は、33,898千円を予定しています。
収入では、これまで積み立ててきた運動の基金から17,237千円、町の一般会計から5,311千円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として9,540千円、その他1,810千円を見込んでいます。
支出は、森づくり作業に係る事業費15,507千円を予定しています。また、事務費として森通信印刷などの広報普及費用や受付事務員賃金などに8,829千円を支出する予定です。

○運動参加件数と寄付金の推移(1977～2018年度)



知床の森づくりには、あなたの力が必要です!

森づくりボランティア&イベント参加者募集中

森づくり週末ボランティア



2019年

- ・6/15(土)～16(日)
- ・9/7(土)～8(日)

【活動内容】

主に苗畑作業(除草・苗木移植等)や防鹿柵の補修作業を行います。



2020年

- ・1/25(土)～26(日)
- ・2/8(土)～9(日)
- ・2/15(土)～16(日)

【活動内容】

冬期森づくりの道の管理や伐採作業を行います。

しれとこの森交流事業



● 森づくりワークキャンプ 2019年

【春】5/15(水)～19(日)…終了

【秋】10/30(水)～11/3(日)

参加費:20,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)*

対象:18歳以上

定員:12名(先着順)

申込×切:【秋】9/30

* 宿舍改修のため、地元の宿泊施設を利用。例年より参加費が高くなることをご了承ください。



● 第40回知床自然教室

詳細は本誌6ページをご覧ください。



● 第23回しれとこの森の集い(植樹祭)

詳細は折込チラシをご覧ください。

イベント・ボランティア参加申し込み・お問い合わせ

公益財団法人 知床財団 自然復元係

TEL:0152-24-2114/MAIL:info@shiretoko.or.jp

100 平方メートル運動の森・トラスト参加のお願い

知床の森づくりは、「100 平方メートル運動の森・トラスト」参加者からの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

■寄付金:1口5,000円

参加(寄付)の方法

- 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。

【郵便払込】

申込書付属の払込取扱票で払い込みください。



寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族・ご友人へ贈るプレゼントにもおすすめです。

【お問合せ】

〒099-4192

北海道斜里郡斜里町本町12番地

斜里町役場 自然環境係

TEL : 0152-23-3131(内線100)

FAX : 0152-23-4150

MAIL : 100m2@town.shari.hokkaido.jp

【ホームページ】

<http://100m2.shiretoko.or.jp/>



「寄付のお願い」ページからお申込みください。

【現金書留】

申込書を同封の上、現金書留で斜里町役場にお送りください。

【クレジットカード】

ふるさとチョイス経由のみ可能です。



ふるさとチョイス 斜里町 で検索



【控除制度について】

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。

- ・相続税は非課税となります。
- ・所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- ・住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- ・控除の対象となるのは、2,000円を超える寄付です。

100平方メートル運動の森づくり
最新情報をSNSにて発信中

